

エクセレントカンパニーの挑戦

一人でも多くの 障がい者雇用を 創出するために

株式会社エスプールプラス 事業本部 エグゼクティブマネージャー 吉岡 てつを

(株)エスプール(プライム市場上場)の子会社である当社は、13年前に設立されました。当時、最低賃金を得ることができていた知的障がい者はわずか20人に1人。社長の和田一紀は、「同じ一人の人間として何かできることはないか。彼ら彼女らがやりがいと誇りを持って収入が得られる環境を作る会社が世の中にあっても良いのではないかと考え、当社を立ち上げました。「一人でも多くの障がい者雇用を創出し、社会に貢献する」。これが当社の一貫した企業理念です。

1 農園による障がい者雇用の新しいカタチ

各企業においては、特例子会社を設置することを含め、企業の既存業務で障がい者を雇用することを基本に進めています。企業が、企業によっては障がい者への業務の切り出しが難しいところ、障がい者にとっては危険と隣り合わせの業務があるところ、障がい者がやりがいをもって取り組んでいる状況とはなっていないところなどが見受けられます。一方、農業は多くの知的障がい者や精神障がい者にとって極めて視和性が高いとされています。農業は自然の中で生活リズムを整えられ、農作物を育てることで責任感ややりがいを感じることで、能力・特性を十分に生かすことができる働きやすい環境であるからです。

こうした中で、当社の就農モデルは、以下のようなものにな

っています。まず、農園で働きたい障がいのある方が、直接ご家族から、あるいは福祉の就労支援事業所・特別支援学校等を通じて当社に照会があります。このような障がい者の方々に、まずは最低4日間の体験会により実際の作業のイメージを体感していただき、本人がこの農園で働きたいかどうかを確認するとともに、当社の専門スタッフが就業に向けたアドバイスを行っています。ご本人・ご家族のご意向も踏まえた上で、企業との面接に繋がる方は約半数で、残念ながら約半数の方は面接に至らない状況になっていますが、就労支援事業所等での訓練を経て、数回目の体験会で就職できた方も多くいらっしゃいます。また、農園の1区画では、障がい者3人と指導等を行う健康者の農場長の4人1チームで作業を行いますので、このメンバーの相性を考慮した上で

ととなり、泥だらけになったり埃まみれになるなど、障がい者に適した環境にならないためです。屋内農園は、水耕栽培農法で行っていますが、都心部に近いところに整備できるので、通勤に困難を抱える方や体温調整が難しい方が利用しやすいものとなっています。

企業にお繋ぎしています。その後、各企業での面接を経て、内定が出れば入社となるわけですが、障がい者や農場長は各企業が直接雇用するもので、雇用管理の責任も各企業が果たしています。そして、このチームが働く場所は、障がい特性に配慮した職場環境となっている当社の「わーくはびねず農園」であり、当社においては農園の管理に加え、雇用経路アドバイザーが安定した就労が継続できるように

するための支援を行い、農業アドバイザーが農業に関する専門的なアドバイスをするなど、側面的なサポートを行っています。各企業においては、それぞれの責任の下、継続的に農園チームと連絡を取り、農場長を指揮し、現場を理解の上、課題が生じたときには迅速な対応に努められています。その結果、当社の農園で働く障がい者の就労1年後の定着率は92%と極めて高い実績になっ



よしおか てつを

1985年厚生省入省、内閣総理大臣官邸内閣参事官、厚生労働省大臣官房会計課長、内閣官房内閣審議官、総務省大臣官房審議官、厚生労働省九州厚生局長等を経て、2023年4月より現職。

ています。障がい別に見ると、知的障がい者は全国調査では68%のところ当社の農園では95%、精神障がい者は全国調査では49%のところ当社の農園では83%となっています。本業で障がい者雇用を進めてきた企業の担当者の方々からは、これまで採用してもすぐに離職して、改めて採用・教育しなければならなかったが、当社の農園の利用を開始してからは、そうした負担がなくなったとの声も多く聞かれます。また、障がいのある方が「やりがい」を持って生き生きと働いていることに大きな価値を感じていらっしゃいます。

現在、当社の農園は、関東・愛知・大阪に41カ所ありますが、屋外型と屋内型があります。屋外農園は、土を使用する農業ではなく、バミスサンド(軽石)を使った養液栽培農法で行っています。土を使用すると、鎌や鍬などを危険なものを使用するこ

2 障がい者雇用が福利厚生・健康経営・社会貢献・SDGsに直結



さいたま越谷第2



ハウス内観 柏



栽培装置 板橋

お問合せ先
 (平日 9:00 ~ 18:00)
 企業担当者の方、行政機関・地方自治体の方:
 0120-982-655
 わーくはびねず農園で働きたい個人の方:
 0120-997-212

当社の事業については、多くの企業から賛同いただき、何よりも大勢の障がい者とその家族の皆さんから強い支持をいただいていたところですが、一部で批判的な意見も散見されます。例えば、利用企業の本業とは関係ない農園で障がい者が働くという点には、障がい者に対する意図が不明確です。しかし、当社の農園で働いている障がい者の皆さんは、農園で働きたいから農

園で働いているわけではなく、障がい者の皆さんは、それぞれの企業の福利厚生や社会貢献の面で活躍しており、企業の福利厚生や社会貢献を担っている健全な社員もいる中で、こうした批判は的を得たものとは言えません。また、障がい者は健全者と同じ所で働くのが望ましい姿ではないかという意見があります。健全者と同じ所で安心して安定

的に働いていければ、それは望ましい形の一つですが、そうではない状況を実際に沢山見えています。制度的には特例子会社という制度がありますが、特例子会社も同様に批判されるのであれば、議論のしようがありません。共生社会の実現という美名の下に、自己犠牲を強いられている障がい者が沢山いるという声も聞きます。

ける有名な言葉があります。「Nothing about us, without us (私たちのことを私たち抜きで決めないで)」という言葉です。私もエスプールのプラスは、この言葉に示される障がい者本位の事業運営を図ることにより、わが国の障がい者雇用の量的な拡大とともに質的な改善に貢献し続けていきたいと考えています。

る、社員食堂で食材として使用する、社員にプレゼントするなどの利用方法です。また、社員に提供して対価として支払われた金銭を寄付に回す企業も多くなっています。こうした利用方法が各社で広がっていき、現在は一般的な利用方法となつていますが、最近では、子ども食堂に寄付するといった利用方法も増えています。また、大手スーパーで販売するケースや、宿泊業・飲食業を営む利用企業ではレストラン等の食材としても利用しています。

また、農園については、野菜を育てるのみならず、企業のノーマライゼーション研修・ダイバーシティ研修の場としても利用する企業が増えています。農園の敷地内で座学と共に、障がい者と一緒に農作業を行うなど、共生社会を体感できる場として活用されています。4月早々に、新入社員が一斉に農園を訪れる

利用していただいています。雇用率が見直される中で、単に法律上の義務を果たすという観点だけではなく、働く障がい者本人のやりがい・安定した暮らしや、企業経営上の新たな戦略を実現させるものとして、各方面のさらなるご協力の下に、より多くの企業等にご利用いただき、一人でも多くの障がい者雇用が実現できるよう努力を続けていくこととしています。

おらず、メールやオンラインで利用企業が勤怠管理や業務指示等を行っている、または、障がい者雇用ビジネス実施事業者が指示の伝達を委託し実施しているケース」があること等が厚生労働省の調査でも確認されており、障がい者雇用ビジネス事業者が、利用企業に対して、本社の担当者の定期的な訪問を求めている企業もあると側聞しています。今後も、こうした適切な事業運営が行われたとしたら、農園で働く障がい者やそのご家族にも無用なご心配をおかけすることにもなりません。

3 障がい者雇用制度の動向とエスプールの使命

障がい者雇用率は、民間企業の場合、現在の2・3%から来年4月には2・5%に、その2年後には2・7%に引き上げられることが決定しています。埼玉県さいたま市・東京都板橋区・愛知県小牧市・大阪府枚方市をはじめ10の地方自治体とは連携協定を締結し、農園を誘致していただいたり、地域の障がい者に当社の農園を紹介していただく等のご協力も得つつ、現在では、大企業を中心に520社に

一方で、当社は13年前に独自に生み出した就農モデルに改善を重ねながら取り組みを進めてきましたが、近年では、同様の事業を行う後発企業が多数あることが確認されています。こうした企業の中には、「1年ごと」に同一就業場所にある他の利用企業の障がい者と入れ替えることで、無期雇用転換ルールの適用を回避できる旨の説明資料を配布しているケース、「利用企業が雇用する管理者を配置して

4 Nothing about us, without us